

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・自然の事物・現象について、問題を見出し、予想・仮説を立て、解決することを通して、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるようにする。	・以下のような問題解決のための力を、各学年で身に付けられるようにする。 3年:問題を見いだす力、4年:根拠のある予想・仮説を発想する力、5年:解決の方法を発想する力、6年:より妥当な考えを作り出す力

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察の記録をする際に、分かったことを詳しく記載することに課題がある。ア</li> <li>・自然の事物・現象から気付きはあるものの、問題を見い出すところまでたどり着けない児童がいる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間や大きさ、長さ等が「どのくらい」「どのような」が伝わるよう、数字で詳細に記録したり、何かと比べたりするように観察の視点をもたせる。ア</li> <li>・気付きから疑問をもたせ、問題につなげる。イ</li> </ul>	各単元の実験・観察の学習ア  各単元の問いを立てる学習イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の視点を与えたことで、具体的な表現で記録することができるようになってきた。ア</li> <li>・気付きを疑問につなげることができるようになってきた。イ</li> </ul>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に書いてあることに頼らず、自分で観察の視点や実験方法を考える力が不十分である。ア</li> <li>・根拠のある予想を立て、問題解決することが難しい。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元で必ず観察・実験を行い、基礎的な知識・技能を身に付ける。ア</li> <li>・各単元の始めに根拠のある予想を立てられるように、十分に時間を確保し、児童同士で考えを共有できるように指導する。イ</li> </ul>	毎回の授業ア  単元ごとイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で、観察実験を行い、基礎的な知識・技能は身に付いた。しかし、自分で実験方法を考える力は、まだ不十分である。ア</li> <li>・単元ごとに根拠のある予想を言えることができる児童が増えた。しかし、時間が足りず、予想を児童同士で考えを共有することは、できなかった。イ</li> </ul>

第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の流れを理解している児童が多くなった。また、学習した言葉や技能は理解できているが、個人差が見られる。<b>ア</b></li> <li>・予想や仮説を立てる際、イメージはもてるものの、根拠をもって考えられる児童が少ない。<b>イ</b></li> <li>・実験結果から考察する力が弱い。<b>イ</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き問題解決学習を中心に学習を進める。<b>ア</b></li> <li>・日常生活や既習事項と結び付けて根拠付けられるように、導入で振り返りや日常生活についての話題に触れる時間を設ける。<b>イ</b></li> <li>・よい考察を書けている児童を学級で紹介する。結果を簡潔でまとめ、考察の時間をしっかり確保するようにする。<b>イ</b></li> </ul>	毎回の授業 <b>ア</b>  毎回の授業 <b>イ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決学習の流れを理解し、学習した言葉や技能を身に付けた。<b>ア</b></li> <li>・日常生活や既習事項と結び付けて、根拠を基に考える児童が増えてきが、個人差が見られる。<b>イ</b></li> <li>・結果から考察する時に、結果をもとにしてまとめる力が身に付いてきた。<b>イ</b></li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の事物、現象を身近なもの捉え、多面的に考えようとする思考力が乏しい児童がいる。<b>ア</b></li> <li>・問題解決をするための、結果→考察→結論の過程がつかない児童がいる。<b>イ</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で身近な事象を取り入れたり、様々な角度からの実験をしたりして、興味をもたせ、児童が疑問をもち、自ら考え、解決していこうとする姿勢を育てる。<b>ア</b></li> <li>・結果から分かることを整理して、予想と結果に適した考えがもてるようにする。<b>イ</b></li> </ul>	毎回の授業 <b>ア</b>  毎回の授業 <b>イ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもち、問題を科学的な見方を基に解決していくようになってきた。<b>ア</b></li> <li>・問題に正対した仮説を立てたり、データに基づいた考察や結論を考えたりすることで、論理立てて考える力が付いてきた。<b>イ</b></li> </ul>

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
3・4年 観察の記録や実験の様子などをタブレット端末で撮影し、後から確認しながら話し合えるようにする。【重点：個別】 5年 実験や観察対象を撮影し、結果を考察する際に共有する。【重点：協働】 6年 調べたいことをいつでも調べられるように手元にタブレット端末を置き、手段の一つとする。【重点：個別】	3年 立てた問いの解決をゴールに設定し、そのためにどう調べていくのか見通しをもたせる。 4年 根拠のある予想を立てることによって、最後まで自分の課題を追求する学習を繰り返す。 5年 学習を振り返り、新たな疑問や解決方法を発想できるようにする。 6年 学習したことを生かして、生活に取り入れたり、さらに発展させて調べたりする活動ができるようにする。